

令和 7 年度高知大学農林海洋科学部  
数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）  
自己点検・評価結果について

令和 8 年 5 月 12 日  
高知大学農林海洋科学部学務委員会

・ 応用基礎レベル教育プログラムの実施

文部科学省により数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(応用基礎レベル)の認定を受け、農林海洋科学部内において表 1 に示す教育プログラムを実施した。令和 7 年度のプログラム修得者は、令和 5 年度入学者の 20 名であった。

表 1：高知大学農林海洋科学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の履修科目（いずれも 2 単位）と履修開始年次

| 履修開始<br>年次<br>基本的要素       | 1 年次                                      | 2 年次                      |                                   | 3 年次               |
|---------------------------|-------------------------------------------|---------------------------|-----------------------------------|--------------------|
| データ処理に関して必要となる<br>数学基礎    | ◎大学数学入門<br>○データ活用のためのプログラミング入門<br>(教養科目)* | ★基礎統計学<br>◎データサイエンスの微分・積分 | ◎データサイエンスの線形代数<br>★AI・データサイエンスの基礎 | ○農科のための AI プログラミング |
| AI を実現するための手段及びデータサイエンス基礎 |                                           |                           |                                   | ★AI 技術の社会・産業への応用   |
| AI を実現するための手段及びデータサイエンス実践 | ★一次産業 DX 概論<br>○データサイエンス実践課題演習（教養科目）      |                           |                                   |                    |

★：必修科目、◎：選択必修科目（1 科目以上）、○：受講推奨科目、\*：令和 7 年度は開講

- ・ 応用基礎レベル教育プログラムの自己点検結果

- 本教育プログラムの新規の必修科目 2 科目を受講している 2 年生および 3 年生を対象とした調査

2 年生を対象とした調査（回答者数：91 名）では、データサイエンスや AI の必要性に対する意識は高く、約 62.6%（57 名）が「興味がある」と回答した。「どちらともいえない」「興味がない」層も一定数いるが、自身の専門分野（農林海洋科学）における必要性については、約 98.9%（90 名）が「必要と思う」と回答した。これは、テクノロジーへの個人的な興味の有無にかかわらず、将来の研究や業務において DS/AI が不可欠であるという認識が学生間に広く浸透していることを裏付けている。

本教育プログラムの認知度については、「知らない」と回答した学生が過半数の約 57.1%（52 名）を占めた。「知っている」「詳しく知っている」を合わせても約 43%（39 名）にとどまっており、学生の DS/AI に対する高い必要性の認識が、実際のプログラムの認知につながりきっていない課題が浮き彫りになっている。本教育プログラムの必修科目である「AI・データサイエンスの基礎」の履修意向については、最も多かったのは「プログラム自体は修得しないが、この科目は履修する」（8 名）という受講ニーズである。次いで「まだ決めていない」（6 名）、「履修しない」（5 名）となり、「プログラム修得を目指して履修する」という層は 4 名にとどまっている。

3 年生を対象とした調査（回答者数：54 名）では、学生の AI やデータサイエンスに対する意識は非常に高く、約 76%（41 名）が「興味がある」と回答していた。さらに、農学・林学・水産学・海洋学といった自身の専門分野における DS・AI の必要性については、ほぼ全員にあたる約 98%（53 名）が「必要と思う」と回答していた。これは、学生が今後の農林海洋科学分野において、テクノロジーの活用が不可欠であると強く認識していることを示している。

一方で、大学が提供している教育プログラムの認知度には課題が見られる。本教育プログラムについて、「知らない」と回答した学生が半数以上の約 54%（29 名）を占めました。「知っている」「詳しく知っている」を合わせても半数に満たず、学生の高い関心がプログラムの認知に直結していない可能性が高い。本教育プログラムの必修科目である「AI・データサイエンスの基礎」の履修意向については、「履修してプログラムを修得するつもりである」と前向きな学生が 18 名いる一方で、「まだ決めていない」と回答した保留層も 12 名存在していた。また、プログラム自体の修得は目指さないものの、単独の科目として履修を希望する学生も一定数見られた。

今後は、この高い潜在的ニーズを実際の履修へと結びつけるために、本教育プログラムの周知・広報活動を強化し、履修を「まだ決めていない」層に対して具体的な学びのメリットを提示して履修者を増加させることが重要だと考えられる。

- 全国学生調査および GPS-Academic による調査

高知大学 学び創造センター高畑貴志准教授および寺田悠希特任講師にご協力いただき、全国学生調査（2 年生および 4 年生対象）および GPS-Academic（3 年生対象）の調査結果のうち、本教育プログラムと関係が深いと考えられる質問項目について調査結果を取りまとめた。

全国学生調査については、令和 7 年度に実施された調査について 4 年生は教育プログラム開始以前であるため、今回は 2 年生の結果のみを対象とした。本教育プログラムの新設科目については 2025 年度から開始された。このため教育プログラムの対象科目開始前である 2024 年度の結果と開始後である 2025 年度の結果を比較する。「身に付いた」と回答した 4.5%から 17.8%に増加した。また、「身に付いた」あるいは「ある程度身に付いた」と回答した学生の合計は 60.7%から 70.5%に増加した（図 1）。

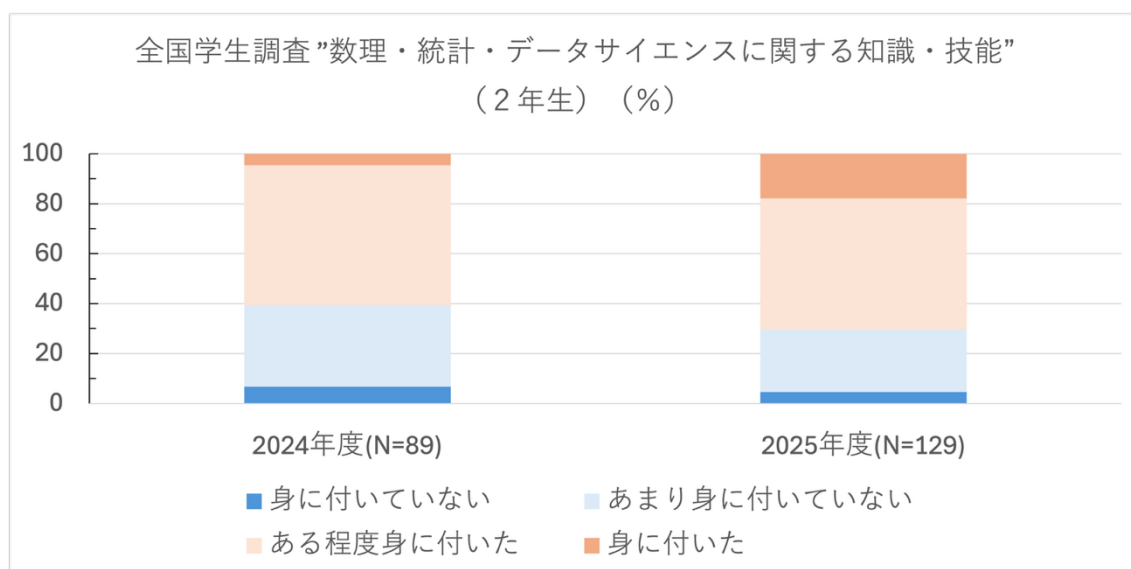


図 1：令和 7 年度全国学生調査 農林海洋科学部 2 年生の“数理・情報・データサイエンスに関する知識・技能”に関する回答結果

GPS-Academic については、「授業の役立ち度（数量的・統計的スキル）」「授業の役立ち度（情報リテラシー）」については 3 年生対象の調査であり、本学部では 2024 年度以降、本教育プログラムの新規の必修科目 2 科目を開講している。

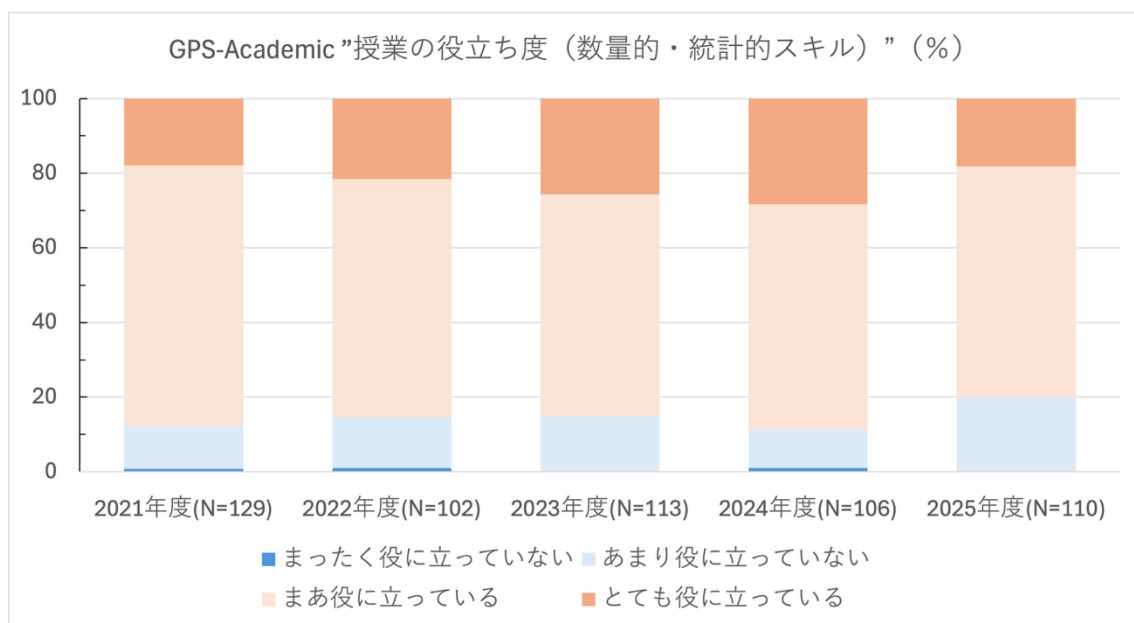


図 2：令和 7 年度 GPS-Academic 農林海洋科学部の”授業の役立ち度（数量的・統計的スキル） ”に関する回答結果

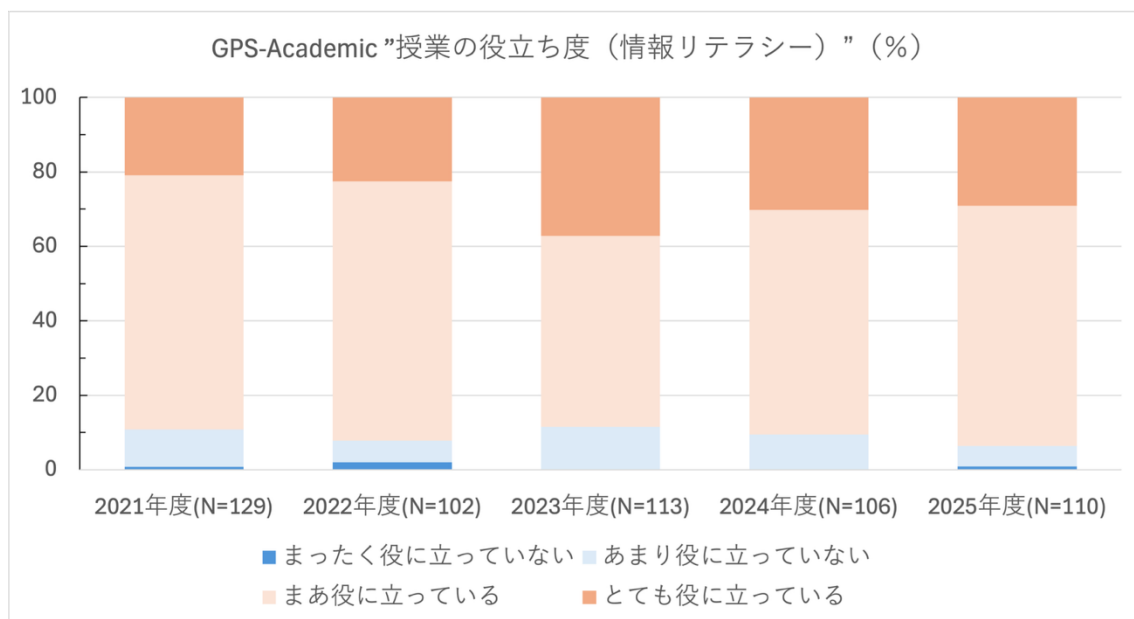


図 3：令和 7 年度 GPS-Academic 農林海洋科学部の”授業の役立ち度（情報リテラシー） ”に関する回答結果

図 2 の「授業の役立ち度（数量的・統計的スキル）」については、2024 年度に「とても役に立っている」と「まあ役に立っている」の合計がそれ以前よりも 5%ほど増加したが 2025 年度ではやや減少している。

図 3 の「授業の役立ち度（情報リテラシー）」については、2024 年度および 2025 年度で

増加の傾向が続いており、2025 年度では「とても役に立っている」と「まあ役に立っている」の合計が 94.6%であった。

本教育プログラムでは、令和 7 年度から教育プログラムの必修科目 2 科目を新規に開講し、令和 5 年度以降入学生全員がプログラムの修得を可能となる教育体系となった。また、高知大学は令和 6 年度に全学においてリテラシーレベルについて認定を受けた。学生、教員のアンケート結果を踏まえ、より満足度が高まるよう引き続き改善を進める。